

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078400175				
法人名	社会福祉法人 久英会				
事業所名	若久園グループホーム				
所在地	福岡県八女郡広川町大字新代1389-117 (電 話) 0943-32-9060				
評価機関名	福岡県社会福祉協議会				
所在地	福岡県春日市原町3-1-7				
訪問調査日	H21年	12月	3日	評価確定日	H22年 1月 15日

【情報提供票より】 (平成21年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 16.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階建て、一部鉄筋コンクリート2階建て 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要 (平成21年11月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 高良台リハビリテーション病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道とゴルフ場に面し、広大な敷地を持つ母体法人の奥まったところに事業所は立地している。事業所は広々として開放的で、共用空間にはメドマー(空気圧を利用した血行促進マッサージ用具)やマッサージチェア等の健康器具が設置されている。年2回の健康診断結果とFIM(機能的自立度評価表)方式を基に、OT(作業療法士)、PT(理学療法士)、ST(言語聴覚士)を中心に、利用者の残存能力を引き出すよう努めている。地域交流を積極的に行い、児童から企業一般まで幅広くボランティアや体験学習を受け入れ、自治会に加入して道路愛護、餅つき大会等の地域行事へ参加している。さらに、事業所主催の納涼大会等に地域から参加があり、まさに地域に密着し開かれた事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について「人権教育・啓発活動」については改善シートを作成し、研修へ参加し、テキスト・パンフレット等の資料を見やすくファイルする等して、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で話し合い、管理者と主任が意見を集約して取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。委員からの要望で地域住民へラジオ体操の場所を提供したり、クリスマス会、花見等の地域行事に参加する等、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会がある。職員は家族来訪時に声かけする等し、積極的に意見、不満、苦情等を聴取するよう努めている。事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明し、玄関にパンフレットを掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。道路愛護、クリスマス会、花見等の地域行事へ参加している。また、児童、生徒、学生、企業一般からボランティアや体験学習を受け入れる等し、地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の人たちとふれあい…」と、地域密着型サービスの視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼、職員会議、勉強会等で理念から具体的なケアについて意見の統一を図り、実践にむけて日々取組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。道路愛護、クリスマス会、花見等の地域行事へ参加している。また、近隣の学校や企業等からボランティアや体験学習を受け入れる等し、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で話し合い、管理者と主任が意見を集約して取り組んでいる。前回評価での改善課題「人権教育・啓発活動」については改善シートを作成し、研修へ参加し、テキスト・パンフレット等の資料を見やすくファイルする等して、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。委員からの要望で地域住民へラジオ体操の場所を提供したり、クリスマス会、花見等の地域行事に参加する等、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政担当者と日常的に運営に関する報告や相談等を行い、連携を図っている。行政から人材育成の相談を受ける等、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、一部職員が外部研修を受講し、その資料を基に職員会議の中で報告して、全職員の周知徹底を図っている。家族等には、契約時に制度の説明をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、個別の事業所便りを家族へ送付している。家族来訪時の報告に加え、情報交換ノートを作成し、家族へ利用者の暮らしぶりや健康状態等を詳細に報告する等の取り組みがある。金銭管理については、月1回、領収書の原本を送付し、金銭出納帳には家族の署名・押印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がある。職員は家族来訪時に声かけする等し、積極的に意見、不満、苦情等を聴取するよう努めている。事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明し、玄関にパンフレットを掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動による弊害を理解しており、職員が相談しやすいように会食や懇親会をする等、異動や離職を抑える努力をしている。また、日常的にユニット間でサークル活動や外出等で交流を図り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては公平性をもち、性別や年齢等で採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、本人の希望を考慮して業務担当を決定する等、働きながら自己実現が出来るような環境づくりに配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一部職員が外部研修へ参加し、会議時に他職員へ伝達研修をしている。テキスト・パンフレット・研修記録がある。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員が日常的に学ぶことを推進している。職員は月2回、母体法人で開催する研修だけでなく、外部研修へ参加する機会がある。研修内容については、全職員が共有できるよう伝達研修をしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者ネットワークに加入し、管理者や職員は勉強会の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学や自宅訪問等を行い、馴染みの関係を築けるよう家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合は、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族と共にしばらく過ごしてもらう等、工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除等を共に行い、職員の知らない生活の技を利用者から教えてもらったり、畑仕事、漬物漬け等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族等から情報を得たり、表情や身振り等で希望や意向の把握に努め、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い、職員の気づきや意見を反映しながら、個別具体的な介護計画を作成している。家族へ説明し、同意の署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリング、カンファレンスを行い、6ヶ月に1回また利用者の状態変化や状況に応じて介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎等を支援している。利用者が入院した際は、家族及び医療機関と協議し、早期退院へ向けて連携を図っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関での受診を支援している。家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、それぞれ柔軟に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、対応方針がある。利用開始時に本人や家族へ説明を行い、同意をもらっている。本人や家族の意向を大切にしながら、医療関係者、職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に努めている。また、職員研修や会議等で意識向上を図り、管理者や職員は注意し合い、周知徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調等に配慮しながら、その日そのときの利用者の気持ちを尊重して、趣味、パソコン、外出、買い物、散歩等、一人ひとりの希望にそって柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けを行っている。一部職員は、同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく会話しつつ見守りと介助を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて柔軟に対応し、入浴が楽しめるよう支援している。入浴拒否の利用者には、その原因を探る等し、臨機応変に一人ひとりのタイミングや意向、希望に応じた入浴ができるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者が得意分野で力が発揮できるよう家事、畑仕事、裁縫、創作等の場면을支援している。講師を招き華道・器楽サークル等の活動を行い、職人を招いて和菓子作りをする等、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候に配慮して、散歩、花見等のドライブ、外食等、利用者の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関及び庭は、家族の同意を得てやむを得ず施錠している。全職員は利用者の外出傾向を把握している。玄関にセンサーを設置し、職員は利用者の外出時は同行して気分転換を図っている。	○	広大な敷地を利用し、利用者の安全を考慮しながら様々な工夫をして、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがある。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、地域住民に参加を呼びかけている。また、非常用食料や飲料水、備品等を準備している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立は利用者の嗜好を取り入れ、職員が作成している。月１回、母体法人の管理栄養士から栄養バランスやカロリーについて専門的なチェックとアドバイスを受けている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
（１）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者と職員が協働製作したちぎり絵や事業所の華道部活動による生け花が飾られている。利用者にとって、不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアには季節に配慮して手作りのリースが飾られ、室内は家族等の写真や手紙、カレンダー等がかけられている。また、ぬいぐるみ、時計、椅子、仏壇等が持ち込まれ、その人らしい個性を尊重した本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。